

令和6年第3回新十津川町議会定例会一般質問通告表

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
1 (5)	大畠 光敬	<p>1 子ども達のSNSやスマートフォンの扱い方への対策について</p> <p>本町の子ども達のSNSやスマートフォンの使い方に関する事で、トラブルに合うことを防ぐために教育する機会をつくる対応は何かおこなっているか。又は今後行う予定があるか。</p> <p>昨今、小学生や中学生においてSNS上などで様々なトラブルに巻き込まれる可能性が非常に高く、本町の子ども達においても大小にかかわらずトラブルに巻き込まれる可能性がある。今後にもむけても何らかの対策を打ち続けていく必要があると考える。現在において町として、教育する機会を作っていることはあるか。</p> <p>また、今後においても子ども達だけでなく、家族などにも向けてSNSやスマートフォンの使い方などについて学ぶ機会をつくる予定はあるか。</p>	教育長	
2 (8)	鈴木 康裕	<p>1 住宅改修工事における太陽光発電設備設置の安全性について</p> <p>令和6年4月より住宅改修工事の助成制度が改正され、省エネ・再エネ工事では最大60万円の助成が受けられる新安心すまいる事業が開始されている。</p> <p>一般に太陽光を利用してソーラーパネル設置による発電で、売電収入を得たり、自宅の電気代の節約を目的とされることが多い。</p> <p>しかしながら、この太陽光パネル設置に関しては、住宅改修工事において安全性に問題があると専門家・工事関係者は指摘している。</p> <p>普通は屋根の上にパネルの重さとして350kgから500kgの範囲での設置が多いが、それでは採算が合わなくて、1トンものパネルを載せないと10年かかってやっと元が取れるくらいと試算されている。こうなると全体の荷重はもちろん重心位置が上がってしまい、横揺れには弱い構造物となる恐れがある。</p>	町長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
		<p>2025年度からは、いわゆる4号特例、木造2階建て住宅の構造審査の省略ができなくなり、場合によっては許容応力度計算が必要となりえる。</p> <p>現行では太陽光発電の設置は建築確認不用であるが、今ソーラーパネルを設置した住宅改修を行っても来年度には既存不適格住宅になってしまうケースが出てくる。</p> <p>このことは昨年度には各関係機関に周知しており、2025年4月1日から改正となっているのに、なぜ本町でこのような政策を推し進めているのか。この助成制度は即時凍結すべきと私は考えるが町長の見解を伺う。</p>		
3 (4)	三師 優美	<p>1 全天候型屋内遊戯施設について</p> <p>子育て支援に手厚い新十津川町で、まちづくり懇談会でも意見があった子どもの遊び場についての考えを伺う。</p> <p>新十津川町では特に幼児の遊び場が少ない。又、近年では猛暑が続く夏場の熱中症対策も必須となってきている。</p> <p>子どもの安全面だけでなく、保護者も安心安全に過ごせる場所として、冬の豪雪や夏の猛暑、雨の日にも対応できるような全天候型屋内遊戯施設の設置を求める声もあるが町長の考えは。</p>	町長	
4 (3)	深瀬美奈子	<p>1 文化協会加盟団体や歴史資料のPRについて</p> <p>文化協会加盟団体に加盟している団体やその活動について知ることができる機会が少ないと感じる。HPや町広報で活動内容や活動日、連絡先を発信してはどうか。</p> <p>また、開拓記念館に保存されている歴史資料について、コロナ禍に町広報で掲載された内容はとても良いものだと思う。継続的に掲載に取り組んでどうか。</p>	教育長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
4 (3)	深瀬美奈子	<p>2 本町のこれからの観光振興について</p> <p>2020年のJR札沼線廃線に伴い、新十津川駅観光案内所が閉所した後、観光の情報発信拠点が存在しないまま今日に至っている。本町のこれからの観光振興において、情報発信拠点を必要と考えるか？本町の歴史や伝統、自然、温泉、宿泊施設、文化施設、立派な公園や体育施設、飲食店等は、それぞれの魅力によって、他市町村からの誘客に繋がっている。これらを生かした、これからの本町の観光振興について問う。</p>	町長	
5 (1)	加藤 敏晃	<p>1 子育て世帯を取り巻く問題の把握について</p> <p>子育て世帯が直面する問題が多岐にわたる中、特に家庭の経済的ストレスや「治安や人間関係の悪い地域に住むこと」が子どもの遺伝子の異常（DNAのメチル化）に大きな影響を与える、という研究結果が報告されている。このような遺伝子異常は、将来的にメンタルの問題を引き起こすリスクが増加することがわかっており、大人になってからの健康のためにも是正しなければならない問題である。</p> <p>当町においても、こうした要因が子どもたちの健全な成長に影響を与えることは避けなければならないと考える。</p> <p>この問題意識に基づき、町長に以下の点について伺う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町長が認識している、当町の子育て世帯を取り巻く主な問題点は何か？ ・ 経済的な視点（例えば、物価や教育費の高騰、家計負担や就業環境など）から見た問題点は何か？ ・ 社会的な視点（例えば、地域コミュニティ、地域社会のサポートや社会的孤立など）から見た問題点は何か？ ・ 子育て支援や教育の分野において、特に解決が必要とされる問題は何と考えるか。 	町長	

順位 (議席番号)	質問者	質問事項	答弁者	摘要
5 (1)	加藤 敏晃	<p>2 子どもや若者の貧困の解消に向けた取組について</p> <p>令和5年7月に公表された国民生活基礎調査の結果によると、子どもがいる現役世帯の令和3年度の貧困率について、10.6%であった。</p> <p>この調査では、本町に関する貧困率のデータは公表されていないが、本町の児童生徒就学援助の認定状況をみると、令和3年度は小中学生合わせて468人中70人、率にすると15%の児童生徒が認定を受けていたことから、本町の子どもがいる現役世帯の貧困率は、一定程度あることが推察される。</p> <p>子どもの貧困はそのまま若者の貧困となり、多くの場合、世代を超えて繰り返される傾向がある。</p> <p>今年の6月に可決した「こどもの貧困の解消に向けた対策推進法」への改正を受けて、自治体においても貧困の解消に取り組んでいく必要があると考えるが、法改正の趣旨に基づき、新たに導入を予定している支援策や、既存の取組を強化する予定はあるか。町長の考えを伺う。</p>	町長	